



手話通訳、要約筆記あります

市制施行30周年記念

「廿日市市の福祉～未来を語る」シンポジウム

1 目的

廿日市市では、市民が「福祉」を自分たちの問題と考え、さまざまな地域活動やボランティア活動に取り組んできた歴史があります。こうした市民の活動を福祉の専門機関や行政が応援し、協働により取り組んできました。

このシンポジウムでは、廿日市市民による福祉活動のあゆみを振り返りながら、これからの廿日市市の地域づくり、地域の福祉づくりを話し合うことを目的とします。

2 日時

2018（平成30）年8月10日（金） 13時30分～16時30分

3 会場

はつかいち文化ホールさくらびあ 小ホール（定員300人）

4 主催・共催

特定非営利活動法人ふくし文化塾はつかいち
廿日市市
社会福祉法人廿日市市社会福祉協議会

5 内容

（1）開会

主催者あいさつ 特定非営利活動法人ふくし文化塾はつかいち 理事長 平 昭治
お祝いのことば 廿日市市長 眞野勝弘

（2）報告

「廿日市市民による福祉活動の歴史をまとめ終えて」（公益財団法人 日本社会福祉弘済会助成事業）
日本大学文理学部社会福祉学科 教授 諏訪 徹

（3）シンポジウム

「廿日市市の福祉～未来を語る」

シンポジスト 西村英子（廿日市市障がい福祉相談センターきらりあ相談支援専門員）
益本住夫（NPO法人「ほっと吉和」理事長）
伊藤竜也（廿日市市社会福祉協議会地域福祉課長）
弘胤堅二（廿日市市佐伯支所長）

コメンテーター 諏訪 徹（日本大学文理学部社会福祉学科 教授）

コーディネーター 山下興一郎（淑徳大学総合福祉学部社会福祉学科 准教授）

（4）総評

公益財団法人 日本社会福祉弘済会 理事長 寺田 亮一（交渉中）

（5）閉会